

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

所報むろと

2014 第27号

—平成25年度 事業報告—



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家



巻 頭 言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家
所 長 石 川 昇

平成 25 年度に実施した事業の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

平成 25 年度も多くの皆様に御利用いただきました。これからも一人でも多くの子供に、より質の高い体験活動プログラムを提供できますよう、職員一同積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

いじめなど様々な青少年の問題が深刻化している昨今、国立青少年教育振興機構は青少年の自然体験、社会体験の不足がこれらの大きな要因であると考え、「体験の風をおこそう」運動を全国で展開しています。現代の子供たちの体験不足は我々大人が考える以上の状況にあり、もはやこれらの体験は「身の回りにあるもの」ではなく「意図的に与えなければならないもの」になっています。

中央教育審議会が平成 25 年 1 月 21 日に答申した「今後の青少年の体験活動の推進について」においては、体験活動の重要性を認識し、学校・家庭・地域など社会総ぐるみで青少年に多くの体験活動を提供し、青少年の「社会を生き抜く力」の養成をしなければならないとしています。当施設も様々な体験活動をより有意義かつ効果的に提供することに努め、これからの社会を担っていく子供たちの成長の一助になれば、嬉しく思ひます。

また、世界ジオパークに認定された室戸岬を職員のガイドで散策する「室戸岬探勝」を希望される団体が近年は増えており、当施設のメインテーマである「ウォーターワイズ」も南海トラフ地震を想定して「防災」を意識した内容に移行しつつあります。これからも地域に根差した活動、地域に求められている事業を提供していきたいと思ひますので、一層の御支援をいただけますようお願いいたします。

目 次

平成25年度事業報告

調査研究事業

●ウォーターワイズⅢ	1
------------	---

教育事業

●ボランティア養成講座	3
●日本列島ともだちの輪	4
●黒潮チャレンジキャンプ	7
●自然体験活動指導者養成研修	8
●ジオパーク探検隊	8
●自然ふれあい体験事業	9
●ジオ化石博士になろう	10
●めざせ星空ウォッチャー	11
●教員免許状更新講習	12
●ふれあい通学合宿	13

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

●キッズデイ①～③	15
●子ども体験遊びリンピック	16
●室戸くろしお祭り	16
●アウトドア de クッキングう～！	17
●室戸オープン卓球大会（小学生の部）	18
●むろと2000本桜祭り	18

地域応援事業

●土阿交歓小学生バレーボール大会	20
●MAZEに集うちびっ子バレーボール交流会	20
●中・四国6年生軟式野球室戸大会	20
●四国交流三四郎のつどい	21
●四国少年野球大会（5年生）	21

管理運営報告	23
--------	----

広報活動	27
------	----

利用実績	28
------	----

利用者の声	29
-------	----

調 査 研 究 事 業

事業名

ウォーターワイズⅢ

趣 旨

今後想定される南海トラフ地震及び津波に対して、子供たち自らが「地域における率先避難者」となれるよう、「自然・海の楽しさ、恩恵」と同時に「自然・海の力の大きさ、脅威」について体験的に学ぶことに主眼を置いて、それらの学習の導入となるプログラム開発を行う。平成25年度は「ウォーターワイズⅢ」新規活動プログラム開発協議会を設置し、モデル的なプログラムの開発を行う。

実施期間

平成26年1月～平成28年3月

平成25年度 新規プログラム開発協議会による協議 (3回を予定)

平成26年度 協力校による開発プログラムの実施と教育的効果の分析

平成27年度 開発プログラムの改善と事業成果のまとめ

事業の成果

本年度「ウォーターワイズⅢ」を立ち上げ、新規プログラム開発協議会委員会を構成し、防災やジオパークなどの視点を取り入れたり参加校のニーズを取り入れたりしながら、新しい海の活動プログラムの開発を行う事ができた。

また、新規プログラム開発を行う過程において、職員の防災に対する見識も深まり、海の活動マニュアルの改訂にも役立った。

新規プログラム開発協議会協議委員及び助言者は次のとおりである。

協議委員

(50音順)

氏 名	役 職 名
江 渕 倫 将	高知県立幡多青少年の家所長
岡 村 眞	高知大学総合研究センター防災部門特任教授
平 岡 亮 平	徳島県立牟岐少年自然の家事業部指導員
源 純 夏	徳島ライフセービングクラブ代表

助言者

氏 名	役 職 名
澤 田 彰 人	高知海上保安部警備救難係長
戌 亥 雅 彦	高知海上保安部警備救難係員

なお、2泊3日の活動プログラムの例は次のとおりである。

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
午前		波の力を体験する活動 プログラム	講話、演習
午後	浮力を体験する活動 プログラム	水流の力を体験する 活動プログラム	
夜	振り返り	振り返り	

事業の課題

課題としては、評価システムの構築が不十分である。評価項目は「自然の偉大さ」「自然への親しみやすさ」「自然の力の大きさへの認識」「実際に実行に移す認識」「活動の楽しさ」等によいのか。評価の方法はアンケートを活用するのか、他の方法を活用するのか。評価システムの構築が大きな課題となる。

また、2泊3日のプログラムになるため、利用できる団体が限られてしまう恐れがある。そこで、1泊2日や日帰りにも対応したプランの開発も必要になる。

さらに、悪天候により通常の活動が制限されるなど、学習の効果が十分に発揮できないケースも考えられる。今後は、天候による活動場所の変更があった場合でも実施可能な効果的な指導方法の工夫を模索していくことも必要になる。

今後の方向性

平成26年度から高知県、徳島県の学校を中心に活動を行いプログラムの検証作業を進めていく。

また、評価の基準となる「自然や人とのかかわりに関するアンケート（本部作成）」のアンケートと室戸青少年自然の家が独自作成した「ウォーターワイズⅢアンケート」を基に、次年度については、評価の方法についても検証をしていく。

教 育 事 業

事業名

ボランティア養成講座①

ボランティア養成講座②

趣 旨

自主企画事業「室戸サバイバルキャンプ～非日常の世界へ飛び込め～」

- ① 国立青少年教育施設で教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、研修支援事業や教育事業及び業務において、ボランティア活動を行う法人ボランティア（独立行政法人国立青少年教育振興機構で活動するボランティア）を育成する。
- ② 法人ボランティア自身で事業の企画・立案・運営を行うことにより、1年間のボランティア活動の成果を発揮する場を設け、ボランティアの資質向上につなげる。

対 象

- ① 当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者。小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思のある18歳以上の者。
- ② 小学5年生～中学2年生

実 施 期 間

- ① 平成25年5月18日（土）～19日（日）
- ② 平成26年1月18日（土）～19日（日）

参加者／定員

- ① 45名／定員なし
- ② 36名／36名

活動プログラム

第1回

	5月18日（土）	5月19日（日）
午前	青少年教育施設の現状と運営 野外炊事	ボランティア活動の意義 青少年教育施設におけるボランティア活動の意義
午後	救命救急法、普通救命講習	
夜	青少年教育の理解	

第2回

	1月18日（土）	1月19日（日）
午前		木になるオリジナルアート（木エクラフト）
午後	食材オリエンテーリング 野外炊事	
夜	ダンボールハウス製作	

事業の成果

第1回では、演習として野外炊事を取り上げた。大半の学校団体が実施している活動であり、火おこしや調理の技術だけでなく、安全管理について注意すべき点も学んだ。救命救急法は地元の消防士を講師に招き、体験談も交えながら実際にAEDの操作も行った。座学だけでなく実際に操作をすることで、受講者の理解も深まったと思われる。全体を通して受講者は意欲的に取り組んでおり、39名の参加者が法人ボランティアとして新規登録した。

第 2 回は法人ボランティアが企画から当日の事業実施までを行うもので、1 年間の活動の集大成と位置付けられている。事業開催に当たっては、法人ボランティア自身が自主的に何度も打ち合わせをしており、真摯に事業に取り組む姿勢が見られた。また、担当職員からのアドバイスを受けることで事業に対する理解も深まっていったように思われる。

事業の課題

本研修の受講者の多くは大学生である。授業等の関係で第 1 回に参加できなかった大学生のためのフォローアップの機会を設けることも必要となってくる。

また、今回も県立青少年教育施設と連携してボランティアの養成に取り組んだ。実際に数名の法人ボランティアは県立青少年の家の事業でも活動しており、研修の成果を発揮している。このことは彼らの活動の場が広がるだけでなく、それぞれの施設の取組を学ぶ機会にもなり、スキルアップに繋がっている。これからも県立青少年教育施設と連携を深めながら、どんな施設でも活躍できるボランティアを養成していきたい。

今後の方向性

法人ボランティアは自主的にトレーニングの機会を設けたり、ミーティングを重ねて意思の疎通を図ったりしている。施設としてもこの自主的な動きにどう関わっていくべきか検討していきたい。

参加者の感想

- いろいろなことが身について、人として成長できた気がする。(第 1 回)
- 実際に子供と触れ合うときにトラブルが起きても少しは大丈夫だと思えるようになりました。(第 1 回)
- やさしく、おもしろく、こういうふうに指導・助言ができるようになりたいと思いました。(第 1 回)



事業名

日本列島ともだちの輪

趣旨

異なる地域の子どもたちが交流し、生活様式や自然環境などの違いを体験するとともに、『ともだちの輪』を広げ、それぞれの地域の良さを発見する。

共催

組合立丹波少年自然の家（兵庫県）

対象

高知県内に住む小学 5 年生から中学 2 年生までの児童・生徒と、組合立丹波少年自然の家の募集に賛同した近畿地域の小学 5 年生～中学 2 年生までの児童・生徒

実施期間

夏編 平成 25 年 8 月 10 日（土）～平成 25 年 8 月 13 日（火）3 泊 4 日

冬編 平成 25 年 12 月 26 日（木）～平成 25 年 12 月 28 日（土）2 泊 3 日

参加者／定員

62 名／60 名

活動プログラム

夏編

	8 月 10 日（土）	8 月 11 日（日）	8 月 12 日（月）	8 月 13 日（火）
午前		海浜活動	高知市内班別行動	閉講式 退所
午後	アイスブレイキング	オーシャンカヤック スノーケリング	よさこい祭り見学 観光施設見学等	
夜	グループミーティング	グループミーティング	お別れパーティー	

冬編

	12 月 26 日（木）	12 月 27 日（金）	12 月 28 日（土）
午前		スキー体験 （アップканなべ）	化石発掘体験 恐竜館見学
午後	はじめのつどい 交流ゲーム 郷土料理体験		おわりのつどい 解散
夜	化石発掘事前学習 スキーウェアサイズ合わせ	お別れパーティー	

活動の様子

【夏編 in 室戸】

1 日目は、初めて室戸と丹波の参加者が顔を合わせるのので、アイスブレイキングで班活動をスタートさせた。夜は、3 日目の高知市内班別行動に向けて、班ごとにどのようなコースで高知市内を見学するか相談を行った。その後、室戸のリーダーが作った資料を見ながら高知市について調べ、自分たちが行きたい場所について意見を出していた。

2 日目は室戸名物の海の活動を体験した。2 つのグループに分かれ、午前午後でスノーケリングとカヤックを行った。夜は 2 回目のグループミーティングを行い、翌日の見学計画を完成させた。

3 日目は、いよいよ高知市内班別活動の日。昨日までグループで話し合っ決めたコースを、メンバー全員で協力して探索した。高知城などの観光地を訪問し、よさこい祭りの様子を見学した。天気がよく、暑さも厳しかったが、全員が無事にゴールすることができた。夜のお別れパーティーでは、グループ活動の楽しさを発表していた。

4 日目は、アンケートと感想を書いたあと、閉講式を行った。すっかり仲良くなった友達と別れを惜しみつつ、冬編での再会を約束していた。



【冬編 in 丹波】

1 日目は、久しぶりに室戸と丹波の参加者が顔を合わせるので、アイスブレイキングから班活動をスタートさせた。夕方は、丹波の郷土料理である「山の芋」をすり下ろし、夕食で食べた。夕食後は翌日に使うスキーウェアのサイズ合わせを行った。その後、3 日目の化石発掘体験で指導していただく足立氏から写真を使った丹波の化石についての説明を聞いた。

2 日目は、丹波から神鍋高原まで移動し、スキーを体験した。コースを上級・中級・初級の3 つに分け、上級コースは丹波の職員が、中級・初級コースはインストラクターが中心となって指導を行った。午前中は雪も少なく練習場所も限られていたが、昼頃には辺り一面雪となり、室戸の子供たちにとっては今まで体験したことがないような積雪で、とても貴重な体験になった。夜のお別れパーティーでは、グループ活動の楽しさを発表していた。

3 日目は、丹波で最近化石が発掘された場所に行き、化石発掘体験と資料館の見学を行った。資料館では先日教えていただいた足立氏が説明をしてくださった。昼食後アンケートと感想を書き、閉講式を行った。すっかり仲良くなった友達と別れを惜しみつつ、未来での再会を約束していた。



事業の成果

本事業は今回で9 回目となり、プログラムは安定して実施できるようになった。当施設でも、県外という広域に渡る交流を持つプログラムはこのプログラムしかなく、また、夏編、冬編と長期にわたり実施することも魅力の一つだと考える。冬編では、丹波でスキー体験を実施し、普段雪の降らない高知県の子供たちは雪国の遊びや生活にふれることができた。また、恐竜の骨が発見された丹波での化石発掘などを体験することができた。離れた地域の友達と交流することは、お互いにとって刺激的であり、相手の地域の良さを知ることとともに、自分の地域の良さを改めて考えることにもつながった。

事業の課題

長期継続事業ゆえに事業の内容が固定化されつつある。室戸での海の活動体験、丹波でのスキー体験という異なった自然・風習等にふれる活動に主眼を置く活動だけでなく、今一度、日本列島ともだちの輪で目指す子ども像を明らかにし、参加者の成長に即するようなプログラムの作成が必要だと感じた。

参加者の感想

- 友達との絆を深く感じ取れた。
- 自分の地域であんまり体験したことがないことがやれた。
- それぞれの地域でしか味わえないことなので大変良かった。
- 友達をいっぱい作れて楽しかった。
- とても楽しい4 日間になりました。来年も絶対行きたいです。

事業名

趣旨

共催

対象

実施期間

参加者／定員

活動プログラム

黒潮チャレンジキャンプ

高知市から室戸岬までの移動型キャンプの中で、仲間とともに困難に立ち向かい、克服する体験を通して、自己肯定感や社会性、協調性といった「生きる力」を育むことを目的とする。

関西テレビ青少年育成事業団

中学生・高校生

平成25年8月21日（水）～8月25日（日）4泊5日

23名／30名

8月21日（水）	8月22日（木）	8月23日（金）	8月24日（土）	8月25日（日）
開会式 テント設営 食事作り 目標設定	マウンテンバイク （高知市桂浜～ 奈半利町加領郷） テント設営 食事作り	マウンテンバイク （奈半利町加領郷 ～自然の家） 食事作り ミーティング	徒歩（自然の家～ 室戸岬） オーシャンカヤック ミニクルージング 生還パーティー	あとかたづけ ふりかえり 閉会式

運営の留意点

共催団体と常に連絡を取り合い、役割分担を確認しながらも、状況に応じた柔軟な対応ができるよう、密な関係性を構築した。

また、参加者の体調を把握し、その状況に応じたコース変更を行うように複数ルートの下見を実施した。

事業の成果

今年度からの試みではあったが、民間団体である関西テレビ青少年育成事業団との連携により、互いに補いあって1つの事業を完遂する体制を構築できた。また、移動型キャンプにおける安全管理のノウハウやスタッフの組織体制の基礎を構築できた。

参加者にとっても、大きなチャレンジを乗り越えた達成感や、仲間との絆を体感したとの声が多く聞かれ、事業よって大きな成長が見られた。

事業運営に関わった学生ボランティアにとっても、子どもとの関わりに迷いながらも、ともに達成した喜びを分かち合うなど、短期の事業では味わえないやりがいを感じた様子であった。

事業の課題

期間中非常に暑かったため、参加者の体調管理が難しかった。体を冷やすことが出来るよう、宿泊地を河川の近くに設定する等の工夫が必要であろう。

また、初日に班の凝集性を高める時間をもっと取れると、より高い効果が上がると思われる。

今後の方向性

我慢強さが失われつつあるといわれる現代の青少年において、「困難に打ち克つ体験」を柱とする本事業の意義は大きい。今後もノウハウの蓄積、スタッフトレーニングの充実をとおして、多様なコースでの実施を図りたい。



参加者の感想

- 苦しかったけど、完走できてよかった。
- 仲間がいることが、これほど心強いと思ったことはなかった。
- 今まででイチバン最高のキャンプでした。また来年も来ます。

事業名

自然体験活動指導者養成研修

趣 旨

森のようちえんをはじめとした幼少期の子どもや青少年向けの自然体験活動プログラムにおいて、子どもの発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を養成する。

主 催

高知県教育委員会

対 象

自然体験活動の指導者、青少年教育施設等で活動するボランティアリーダー等。自然体験活動に興味関心を有する者。

実 施 期 間

平成 25 年 9 月 14 日（土）～9 月 16 日（月） 2 泊 3 日

参加者／定員

11 名／24 名

活動プログラム

	9 月 14 日（土）	9 月 15 日（日）	9 月 16 日（月）
午前		野遊びの愉しみ～浜辺編～	野遊びの企画
午後	子どもの野遊びと学び	〃 ～山編～	
夜	野遊びの現在	野遊びの効能	

事業の成果

「野遊び」や「自然体験」の現状を踏まえた上で、実際に自然の中でフィールドをいかした遊びを考え、お互いに学んだことを共有した。「対象に合わせた適切な難易度」を意識し、様々な野遊びを企画できる柔軟な思考が養えた。



事業名

ジオパーク探検隊～地球の息吹を聞こう～

趣 旨

海に面した室戸の様々な自然の様子に触れる中で、世界ジオパークに認定された室戸岬周辺の地形及び海岸周辺の自然を観察するとともに、大地の成り立ちを知り、自然と人間との関わりを知ることをねらいとする。

共 催

高知県立青少年センター

対 象
実 施 期 間
参加者／定員
活動プログラム

小学校 3 年生以下とその保護者
平成 25 年 10 月 12 日（土）～10 月 13 日（日） 1 泊 2 日
58 名／60 名程度

	10 月 12 日（土）	10 月 13 日（日）
午前	開講式 ジオパーク探検（陸編）	ジオパーク探検（空・海編）
午後	野外炊事（ジオカレー）	閉講式

事業の成果

県立の施設や地元の推進協議会と共同開催することで役割分担がなされ、事務手続きの軽減が図れた。当施設で宿泊を行い、バス運行するなど、それぞれの強みが生かせることができた。

事業の課題

地質だけにとどまらず、食べ物や歴史・文化（祭り）、防災など、多角的にとらえたプログラムを開発し、世界ジオパークに認定された室戸の魅力を伝えていきたいと考えている。

参加者の感想

- 地層が波打ったり、シマシマ模様になっていたりして驚きました。
- ヤッコカンザシの巣は、もともと波打ち際や水の中にあったのに、地震で土地が隆起して陸地が上がってきたのがすごいと思いました。



事業名

自然ふれあい体験事業

趣 旨

不登校等課題を抱える青少年が自然と触れ合う体験を通じて、人との関わりや達成する喜びを得るとともに、指導者間のネットワーク作りに資する。

共 催

高知県心の教育センター

対 象

不登校など心に悩みを持つ中学生・高校生およびその指導者・保護者

実 施 期 間

平成 25 年 10 月 17 日（木）～10 月 18 日（日） 1 泊 2 日

参加者／定員

18 名／30 名

活動プログラム

10 月 17 日（木）	10 月 18 日（金）
開会式 イルカトレーナー体験 食事作り・持ち寄りパーティー	磯観察 浜辺散策 ふりかえり ※ 天候および参加者の体調を鑑みてカヤックは中止とした

運営の留意点

共催団体と常に連絡を取り合い、役割分担を確認しながらも、状況に応じた

柔軟な対応ができるよう、密な関係性を構築した。

また、参加者の体調を把握し、その状況に応じたコース変更を行うように複数ルートの下見を実施した。

事業の成果

参加した子供たちの多くが、まだ昼夜逆転の状態であるため、自宅や支援センターから離れ、自然の家において規則正しい生活（早ね早起き朝ごはん）を送ること自体が、大きな挑戦となる。初めは緊張からか饒舌になったり疲労感をにじませることもあったが、スタッフ各自がリードしていく手法ではなく、寄り添って見守る方法をとったため、全員が居心地の良い場所を見つけることが出来た様子であった。

2 日目は、ゆっくりした時間を過ごしながらも、途中から磯観察やビーチコーミングに熱中する姿も見られ、気分転換と同時に指導者・保護者が子供の新たな一面を垣間見ることができた。

事業の課題

交通手段の関係上、参加者のほとんどが高知県中央部～東部に限られる。また、気持ちが変わり、急遽参加できなくなるなど、人数変更等に対して柔軟に対応できる体制をとらねばならない。

今後の方向性

一度きりではなく、年間複数回実施することで、事業効果を持続・向上するやり方も試行してみたい。

また、不登校・ひきこもりに関する問題は、室戸周辺に限ったことではない。県内の公立施設等とも連携し、遍く実施できるフォーマットを作り、気軽に展開できる手法を普及していきたい。

参加者の感想

- 不安はたくさんあったけど、来てよかった。
- 子どももとても楽しんでいたが、親も他のお母さんとの交流でいろいろとアドバイスいただき大切な心の支えとなった。
- 久しぶりに子どものいい笑顔見えた。来た価値があった。
- スケジュールがゆったりもよかった。ありがとうございました。

事業名

ジオ化石博士になろう

趣 旨

室戸ジオパークという貴重な地質遺産や、県東部にある化石群の発掘を通して、大地の成り立ちを知り、自然と人間との関わりを食生活や産業、歴史などの観点から理解することをねらいとする。

共 催

高知県立青少年センター

対 象

小学4年生～6年生までの児童

実施期間

平成25年11月2日（土）～11月4日（月） 2泊3日

参加者／定員

34名／40名

活動プログラム

	11月2日（土）	11月3日（日）	11月4日（月）
午前	開講式	化石採集 （安芸郡安田町唐浜）	化石クリーニング 名前調べ 標本作り
午後	ジオパーク探検	（青少年センターに移動） 化石の話 野外炊事	認定式 閉講式
夜	化石夜話		

運営の留意点

事業の成果

共催団体と入念に打合せを行い、役割分担を明確にした。

本事業は、高知県立青少年センター、室戸ジオパーク推進協議会と共同開催したことで、高知県東部という広範囲なエリアで活動することができた。参加者は、個人差があるもののジオパークや化石に対して高い関心を持っており、地質専門員の協力を得たことで専門的な知識を求める参加者にも対応することができた。また、各団体と共同で活動案を作成したことで、室戸ジオパーク推進協議会地質専門員の資料を使った具体的な説明を受けることができたり、高知県立青少年センターの豊富な化石資料と化石に詳しい職員の指導・支援を受けられたりと、それぞれの特性を発揮できる充実した内容となった。参加者は、ジオパーク探検や化石採集・クリーニングなどの直接体験により、理解が深まったようだ。

事業の課題

共催団体である高知県立青少年センターとは距離が離れているため、打合せの機会を増やし、意思の疎通を図るとともに、役割分担をさらに明確にする必要がある。

今後の方向性

化石に興味・関心を持つ児童は確実にいるため、今後も多くのリピーターが予想される。そういったリピーターの期待に応えるためにも、プログラムをさらに充実させ、多彩な体験活動を提供していきたい。



事業名

趣旨

対象

実施期間

参加者／定員

めざせ星空ウォッチャー

望遠鏡の仕組みを理解し、それを使って天体を観察することで宇宙に対しての関心を高め、より深く自然を知ろうとする気持ちを育てることを目的とする。

宇宙や望遠鏡に関心のある親子、一般

平成26年2月1日（土）～2月2日（日） 1泊2日

25名／40名

活動プログラム

	2月1日（土）	2月2日（日）
午前		芸西天文台見学
午後	望遠鏡製作・調整 手作り望遠鏡のテスト	
夜	星空ウォッチング	

運営の留意点

大人から子供まで、参加者の年齢層が幅広かったので、専門的な内容についても平易な言葉を使い、分かりやすく伝えることを心掛けた。

事業の成果

望遠鏡を手作りすることで、星座観察をより身近に感じてもらったのではないかと。子供たちの宇宙に対する関心も高まったように思われる。

事業実施中に施設の水道が使用できなくなるハプニングもあったが、その対応も含めて概ね高い評価を得ることができた。

事業の課題

天候に左右されるプログラムなので、雨天時プログラムの充実を図る必要がある。

今後の方向性

当施設での星座観察は、空の暗さに加え、遮蔽物が少ないため水平線近くまで観察できるというメリットがある。一度にたくさんの星を観察できることを前面に打ち出した企画を考えてみたい。



参加者の感想

- もっと星の勉強をしたくなりました。星はきれいでした。もっと見たいです。（小学生 男子）
- 一方的な講義ではなく、疑問に対して答えていただく対話形式の学習だったので、頭に入りやすく楽しかったです。（母親）

事業名

教員免許状更新講習

趣 旨

「学級指導・学級経営に生かす自然体験活動①②」

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な指導技術を身につける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

対 象

平成 27 年 3 月 31 日及び平成 28 年 3 月 31 日に終了確認期限を迎える小・中学校教諭

実 施 期 間

①平成 26 年 2 月 15 日（土）選択領域 6 時間分

②平成 26 年 2 月 16 日（日）選択領域 6 時間分

参加者／定員

①28 名／30 名

②26 名／30 名

活動プログラム

	2 月 15 日（土）	2 月 16 日（日）
午前	開会行事、オリエンテーション 実習「野外炊事（カレーライス）」 事前・事後指導、薪割り・火起こし体験	開会行事、オリエンテーション 講義「安全管理」
午後	講義「体験活動の意義と学習指導要領」 履修認定証明	実習「ジオパークを生かした自然体験活動の指導法」 履修認定証明

事業の成果

地域の特性を生かした実習を取り入れることで、受講者が学校に帰っても応用しやすいプログラムを提供できた。アンケートの結果を見ると全受講者が講習の内容を「よい」または「だいたいよい」と評価しており、受講者のニーズに沿った講習ができたと思われる。



事業名

ふれあい通学合宿

趣旨

規則正しい生活をするにより、自分で生活のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる等、中 1 ギャップ解消に向けて必要なスキルの習得を目指す。

協力

室戸市教育委員会

対象

小学校 6 年生

実施期間

平成 26 年 2 月 23 日（日）～2 月 28 日（金） 5 泊 6 日

参加者／定員

28 名／28 名程度

活動プログラム

日中はそれぞれの学校に登校
2 月 23 日（日）四国霊場 88 ヶ所の遍路道を歩く、野外炊事
2 月 24 日（月）星座観察
2 月 25 日（火）暗闇探検
2 月 26 日（水）レクリエーション
2 月 27 日（木）キャンドルファイア

事業の成果

来年から同じ中学校に通う小学校 6 年生が、中学校生活にスムーズに入っているように人間関係を深めることができた。

日常の生活リズムが乱れがちな児童に対して、模範的な生活リズムで 1 週間過ごすことにより、生活リズムの改善を促すことができた。

事業の課題

5 泊 6 日という日程で行うため、最終日の金曜日は朝食を食べてすぐに登校

して終了してしまう。最後に振り返りの時間をとるなどして活動を終えることができるよう日程を検討したい。また、職員・ボランティアが学校を訪問するなど、この間の各学校との連携をより密にし、学校と当施設が参加者一人一人の状況について情報を共有できるようにしたい。また、保護者への情報発信をすることで、合宿後も生活のリズムを意識した生活を継続できるように支援したい。

参加者の感想

- 最初は不安だったけど、すぐにみんなと仲良くすることができた。勉強をあらんな静かに集中してしたことがなかったので、家に帰っても集中して勉強したい。
- たくさんの友だちができ、中学校でどんなクラスになるのか不安だったけど、楽しみになった。立てた目標を中学校に行くまで守りたい。
- いつも学校では怒られることが多かったが、リーダーや職員の人自分が頑張っているのを褒めてくれたので1週間頑張ることができた。
- 朝早く起きると朝ごはんも食べられるので、早寝早起きを心掛けたい。

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

事業名

キッズデイ①～③

趣旨

自然体験活動を通して、家族間のふれあいを深める。

対象

園児(4・5歳児)と小学1～2年生(①は小学3～6年生)の児童及びその保護者

実施期間

①平成25年9月7日(土)～8日(日)1泊2日

②平成25年12月14日(土)～15日(日)1泊2日

③平成26年1月25日(土)～26日(日)1泊2日

参加者／定員

①40人/100人 ②129人/100人 ③89人/100人

事業の様子

キッズデイ①「海の宝物に出会うデイ！」

今回は、シリーズで初めて海の活動である「磯観察」を採り入れた。子供たちは磯に生息する様々な生き物に興味津々で、積極的に生き物を捕獲し、観察する姿が見られた。また、参加の記念として、拾った貝殻等で樹脂小物を作った。美しい仕上がりに、参加者は満足そうだった。

キッズデイ②「家族と一緒にクリスマスリース・壁掛け飾り&キャンドルを作りました！」

自ら山を歩いて採集した材料を使い、クリスマスリースや壁掛け飾り作りを楽しんだ。採集時には親子で楽しそうに会話をする様子がみられ、自然の中で開放的な気分を味わっていただけたようだ。完成したリース等の出来栄には満足したようで、他の参加者の作品と見比べながら、会話が弾んでいた。

キッズデイ③「自然だ、おもちゃだ、けんちんだ、親子大集合！」

昨年に続き、けんちん汁づくりともちつきを行った。けんちん汁づくりでは保護者が子供たちに包丁の使い方を指導する姿が見られ、親子でのふれあいの機会になった。もちつきでは重い杵の扱いに四苦八苦していたが、苦労してついたもちを笑顔でほおばっていた。また、今回は地元農家の協力を得て、けんちん汁の食材となる野菜の収穫体験も行った。なかなか土に触れる機会のない子供たちは楽しそうに収穫し、食材への感謝の気持ちも実感しているようだった。



事業名

趣旨

対象

実施期間

参加者／定員

活動プログラム

子ども体験遊びリンピック

自然体験や生活体験等の楽しさや達成感を实感してもらうとともに、体験活動推進の機運を全国に高めることを目的として、様々な競技性のある体験活動を実施する。

「室戸くろしお祭り」前泊者

平成 25 年 10 月 26 日（土）

99 人／定員なし

3 回目の開催ということで、種目やルールの浸透が見られた。過去の記録を掲示する等、子どもたちの意欲を引き出すようにアプローチした結果、子どもたちが意欲的に対象外種目にもチャレンジする姿が見られ、体験活動の普及に資することができたのではないと思われる。

室戸くろしお祭りの前夜祭イベントの中心となるよう、競技の見直しも含めて充実させたい。



事業名

趣旨

実施期間

参加者／定員

事業の様子

室戸くろしお祭り

自然の中での様々な体験活動を通して、交流を深めたり、当施設を多くの方々に知ってもらう。

平成 25 年 10 月 27 日（日）

約 3,500 人／定員なし

本事業は施設開放事業として定着しているイベントで、多くの地域の方たちの協力を得て実施している。当日は天候にも恵まれ、正面広場にはパトカーや消防車・高所作業車の乗車体験などでにぎわう中、トラクターSLの順番を待つこともたちが行列を作り、そのそばでは室戸青少年交流の家ならではのタッチプールをたくさん子どもたちが取り囲んでいた。中に葉にはたくさんのテントが並びそこで高知海洋高校によるマグロの解体・販売や地元の方たちによるアトラクションや販売でにぎわった。中でも地元の保育所のマーチングバンド演奏には大きな拍手が起こり、祭りを盛り上げてくれた。





事業名

アウトドア de クッキングぐう～！

趣旨

野外での料理活動体験を通して、創意工夫や活動自体の楽しさを感じるとともに、参加者相互の交流に新たな仲間との出会い、地域・家庭における教育力の向上に資することを目的とする。

対象

小学生（１～６年生）を含む親子

実施期間

- ①平成 25 年 11 月 23 日（土）～24 日（日） 1泊2日
- ②平成 26 年 1 月 11 日（土）～12 日（日） 1泊2日
- ③平成 26 年 2 月 8 日（土）～9 日（日） 1泊2日
- ④平成 26 年 2 月 22 日（土）～23 日（日） 1泊2日
- ⑤平成 26 年 3 月 1 日（土）～2 日（日） 1泊2日

参加者／定員

①13名 ②31名 ③21名 ④38名 ⑤27名 ／各回 60名程度

事業の様子

アウトドア de クッキングぐう～！①「大”焼きいも大会！」

自分たちで集めた落ち葉を営火場に集め、大きな焚火をおこしたが、子供たちは見慣れない大きな炎に驚きつつも、興味深そうに炎を見つめていた。でき上がった焼き芋の味にも満足したようだ。参加人数は少なかったが、その分アットホームな雰囲気の中で実施できた。

アウトドア de クッキングぐう～！②「手作りバター&パン」

今回は「手作り」にこだわり、海洋深層水から塩を作ることから始めた。完全手作りでバターやパンを作ること、食育の観点からも意義深い事業となった。

アウトドア de クッキングぐう～！③「なんでも『くんせい』」

いろんな食材を燻製にして試食した。燻製機や使用するチップも手作りし、思い思いの食材を２通りの手法で燻製した。苦勞して作った完成品の味は格別だったようだ。

アウトドア de クッキングぐう～！④「オープンでクッキング！」

ダッチオープンや手作りのかまどを活用した料理に挑戦した。一般的に

知られているピザだけでなく、焼きカレーやボルシチ風に込みも作り、寒風も気にならない身も心も温かな一日となった。

アウトドア de クッキングぐう～！⑤「サバイバルクッキング」

カメノテなどの磯の生き物や野草を使った料理に挑戦した。カメノテやアザミなど、同じ高知県下でも室戸以外ではなじみのない食材に驚きながらも、意外と美味しくできたことに喜んでいた。

今後の方向性

これまで未就学児が参加できる事業はキッズデイ等に限られていたが、キッズデイ参加者の要望に応える形で新たに企画した事業である。参加者の満足度も高かったため、今後も様々な企画を盛り込んで実施したい。



事業名

趣旨

対象

実施期間

参加者／定員

事業の様子

第6回室戸オープン卓球大会（小学生の部）

普段あまり交流できない高知・徳島両県内の小・中学生卓球愛好者が室戸に集い、日頃の練習の成果を試しあうとともに、交流を深める。

高知県・徳島県の小学生

平成25年12月7日（土）～8日（日）

180人／定員なし

高知・徳島両県内の小・中学生卓球愛好者の交流を目的に、当施設を会場にして日頃の練習の成果を試しあうとともに、交流を深めた。

県を越えての大会は数が少ないため、参加した子どもたちは毎年この大会を楽しみにしており、続けて参加している選手が多い。今年度から小学生大会のみとなったが、今後も参加者の拡大を図りたい。



事業名

趣旨

共催

むろと2000本桜祭り

地元有志が室戸広域公園に植樹した約2,000本の桜を觀賞するとともに、地域の活性化を図る。

むろと2000本桜の会

実 施 期 間
参 加 者 / 定 員
事 業 の 様 子

平成 26 年 2 月 23 日（日）

約 2、000 人／定員なし

第 6 回の開催となり、「日本一早い桜祭り」のキャッチフレーズも浸透してきたように思う。たくさんの方に早咲き品種の桜を觀賞していただけた。また、当施設が提供する「こけ玉作り」と「木のペンダント作り」も好評を得た。

開花時期は天候に大きく左右されるため、開催時期については検討し、更にたくさんの方々にご来場いただけるよう充実させたい。



地域応援事業

事業名

土阿交歓小学生バレーボール大会

対象

高知県・徳島県の小学生バレーボールチーム

実施期間

平成24年5月11日（土）～5月12日（日）

参加者／定員

16チーム320人／定員なし

事業の様子

高知県から8チーム、徳島県から7チーム、香川県から1チームの合計16チームが参加してA、Bクラスに分かれて、室戸市内の2会場で盛大に開催された。精一杯のプレーと大きな声に、観客席からも温かい応援が送られていた。



事業名

MAZE に集うちびっ子バレーボール交流会

対象

小学生女子バレーボールチーム

実施期間

平成26年3月8日（土）～9日（日）

参加者／定員

8チーム100人／定員なし

事業の様子

第9回 MAZE に集うちびっ子バレーボール交流会は、当施設「つどいの広間」において開催された。この交流会はバレーボール教室も兼ねており、バレーボールを通してスポーツの楽しさを体験することや、バレーボールの普及、及びバレーボール技術の向上を図ることを目的として行われた。どの選手もカー杯プレーし、会場が熱気に包まれていた。



事業名

中・四国6年生軟式野球室戸大会

趣旨

普段交流できない中・四国地域の小学6年生の軟式野球チームが一堂に会し、交流試合を通じて技術力の向上を図り、友情の輪を広げる。カメイクラブ

主催

共	催
対	象
実 施 期 間	
参加者／定員	
事業の様子	

高知東部クラブ

中国・四国地域の少年野球チーム

平成 25 年 11 月 9 日（土）、～10 日（日）

約 1,000 人／定員なし

参加チームからは「プロも使用した素晴らしい球場で、プレーすることができて良かった」「普段は対戦する事のない地域のチームと試合ができ、刺激になった」などの感想が寄せられた。選手達の熱気が感じられる意義のある大会となった。



事 業 名
主 催
対 象
実 施 期 間
参加者／定員
事業の様子

四国交流三四郎のつどい

四国交流「三四郎のつどい」実行委員会

四国四県の柔道教室に通う小学生

平成 25 年 11 月 16 日（土）～17 日（日）

400 人／200 人

この大会は、四国四県の子どもたちが一堂に会し、共に競い合う中で親睦を深め、四国の柔道競技のさらなる進展を図ることを目的に開催している。

四国 4 県からの参加があり、参加団体は他県のチームと対戦しながら交流を深めることを楽しみにしている。本年度は、板野町柔道教室 A が優勝をおさめた。大会運営については、例年通り、高知県柔道協会、室戸市少年防犯柔道クラブの保護者の方々等関係各位の協力により、円滑に進行した。



事 業 名
主 催
共 催
実 施 期 間
参加者／定員
事業の様子

四国少年野球大会（5 年生）

四国交流 5 年生軟式野球室戸大会実行委員会

カメイクラブ

平成 25 年 11 月 30 日（土）～12 月 1 日（日） 1 泊 2 日・日帰り

四国地域 16 チーム 約 800 名

この大会は、普段あまり交流できない四国地域の小学生が室戸の地に集い、軟式野球という一つのスポーツを通して、技術の向上と友情の輪を広げる目的

で開催している。参加チームからは「プロも使用した素晴らしい球場で、プレーすることができて良かった。」「普段は対戦する事のない地域のチームと試合ができ、刺激になった。」などの感想が寄せられた。選手達の熱気が感じられる意義のある大会となった。



管 理 運 営 報 告

【職員の研修・講習等】

- 「新任職員研修」 平成 25 年 4 月 4 日～5 日
(新採用職員、及びその他の職員対象 7 名参加)
 - ・所の概要、実施事業及び利用者受入事業の内容説明、実践を重視した基礎研修
- 「救命救急・AED 講習」 平成 25 年 4 月 15 日
(全職員対象 11 名参加)
 - ・消防署職員による講義と実習
- 「指導系職員研修Ⅰ」 平成 25 年 4 月 17 日
 - ・スノーケリング、カヤックの技能と指導方法の習得 (海の活動指導職員対象 5 名参加)
- 「指導系職員研修Ⅱ」 平成 25 年 4 月 19 日
 - ・スノーケリングの技能・指導方法及び救命方法の習得 (指導系職員対象 5 名参加)
- 「指導系職員研修Ⅲ」 平成 25 年 4 月 27 日
 - ・カヤック活動場所からの避難訓練 (指導系職員対象 6 名参加)
- 「指導系職員研修Ⅳ」 平成 25 年 5 月 1 日
 - ・スノーケリング活動場所からの避難訓練 (指導系職員対象 5 名参加)
- 「防火訓練」 平成 26 年 3 月 24 日
 - ・火災時の避難誘導と消火の訓練
- 「職員研修」 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
 - ・室戸の気象と測候 (全職員対象 11 名参加)
 - ・生涯学習・社会教育・青少年教育 (全職員対象 8 名参加)
 - ・効果的な仲間づくりの合宿～施設職員と教員の連携～ (全職員対象 6 名参加)
 - ・高知県の教育の現状 (全職員対象 10 名参加)
 - ・仲間づくり (全職員対象 9 名参加)



【平成25年度国立室戸青少年自然の家施設業務運営委員会】

日 時 平成 26 年 2 月 4 日(火)14:00～16:00

場 所 高知県ふくし交流プラザ 2階 高齢者能力開発室

出 席 者 井上、小松(久保代理)、酒井、清水、田村、中平、西内、宮地(孝)、安岡、矢野、脇口の
(敬称略) 各委員 計 11 名
(欠席者:越智、尾原、増田、宮地(彌)の各委員)

日 程

1. 開会
2. 所長挨拶
3. 委員紹介
4. 職員紹介
5. 議長選出
6. 議事
 - (1) 平成 25 年度利用見込みについて
 - (2) 平成 25 年度事業について
 - (3) 平成 26 年度事業計画(案)について
 - (4) 予算状況について・職員数について
 - (5) その他
7. 質疑応答
8. 所長お礼のことば
9. 閉会

【施設整備】

○第1 ロッジ 野外炊事場改修工事

当施設での快適な生活と充実した活動を提供するため、第1 ロッジ野外炊事場の改修を行った。



○第2 ロッジ 階段修繕

当施設での安心・安全な生活を提供するために、第2 ロッジの階段の修繕を行った。



○艇庫 シャッター取替及び塗装

海の活動で使用する用具等の防犯管理向上のため、艇庫シャッターの取替と劣化防止のための塗装を行った。



○工作棟 天井の修繕

活動時の安全確保のために、工作棟の天井の剥離箇所の修繕を行った。



○その他

利用者に快適な生活と充実した活動を提供するために、下記設備の充実や建物改修を行った。

- ・ 海浜活動センター 遮光ネット修繕
- ・ くろしお棟 エアコン修繕、フローリング修繕
- ・ 浴室 タイル修繕
- ・ 第1ロッジ エアコン修繕
- ・ 水道管 漏水修繕
- ・ つどいの広間 雨漏り修繕

【設備備品】

○食堂 LED照明機器の設置

当施設の経費節減及び省エネルギー対策のため、食堂にLED照明機器を設置した。



○食堂 コンビオーブンの更新

利用者に食事を円滑に提供するため、コンビオーブンの更新を行った。



○講師室ラウンジ設置のテレビの更新

快適な生活を提供するため、講師室ラウンジに設置してあったテレビを更新した。



○軽トラックの更新

海の活動で使用する用具運搬等のため、軽トラックを更新した。



○ワイヤレスアンプ及びマイク整備

活動を円滑に行うため、ワイヤレスアンプ及びマイクの整備を行った。

○マリン用品の充実

当施設が5月から10月にかけて実施している海の活動（「スノーケリング」及び「オーシャンカヤック」）で使用するマリン用品のうち、使用頻度が高く、特に劣化が著しいものについては新規に購入し、充実を図った。

【業務委託】

○污水处理施設維持管理業務委託契約

污水处理施設維持管理業務委託について、一般競争入札を経て、四国パイプ工業株式会社と契約を締結した。

（契約期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日）

○警備業務委託契約

警備業務委託について、一般競争入札を経て、ケイエスエー・プロテック株式会社と契約を締結した。

（契約期間：平成25年10月1日～平成28年9月30日）

○ボイラー設備運転及びその他設備保守管理業務委託契約

ボイラー設備運転及びその他設備保守管理業務委託について、一般競争入札を経て、太平ビルサービス株式会社と契約を締結した。

（契約期間：平成25年10月1日～平成28年9月30日）

○清掃業務委託契約

清掃業務委託について、政府調達を経て、株式会社四国ダイケンと契約を締結した。

（契約期間：平成25年10月1日～平成28年9月30日）

広 報 活 動

平成 25 年度も広報活動として様々なイベントにブースを出展し、活動体験と併せて施設の P R を行った。

実施日	イベント名	会 場	来場者数
4 月 28, 29 日	室戸とんがり市	室戸岬	2, 500
7 月 15 日	ふるさと室戸まつり	海の駅「とろむ」	2, 500
10 月 6 日	とろむの日	海の駅「とろむ」	2, 200
11 月 3 日	室戸岬灯台まつり	室戸岬灯台	1, 600
11 月 3 日	農学部一日公開	高知大学物部キャンパス	1, 600
11 月 10 日	室戸市産業祭	海の駅「とろむ」	3, 600
11 月 10 日	淡路うずしおフェスティバル	国立淡路青少年交流の家	600
2 月 2 日	春の観光開き	室戸岬	1, 600
2 月 23 日	むろと 2 0 0 0 本桜祭り	室戸広域公園	1, 500
3 月 3 日	室戸わんぱくランド	室戸広域公園	200
3 月 8, 9 日	高知東海岸ハピもぐ海山フェスタ	こうち旅広場（ＪＲ高知駅前）	600



磯の生き物に夢中



ナマコだってさわれるよ！



小さい子にも人気のペンダント作り



好きなイラストを描いています



久しぶりの高知市内進出となった「ハピもぐ海山フェスタ」は大盛況！！



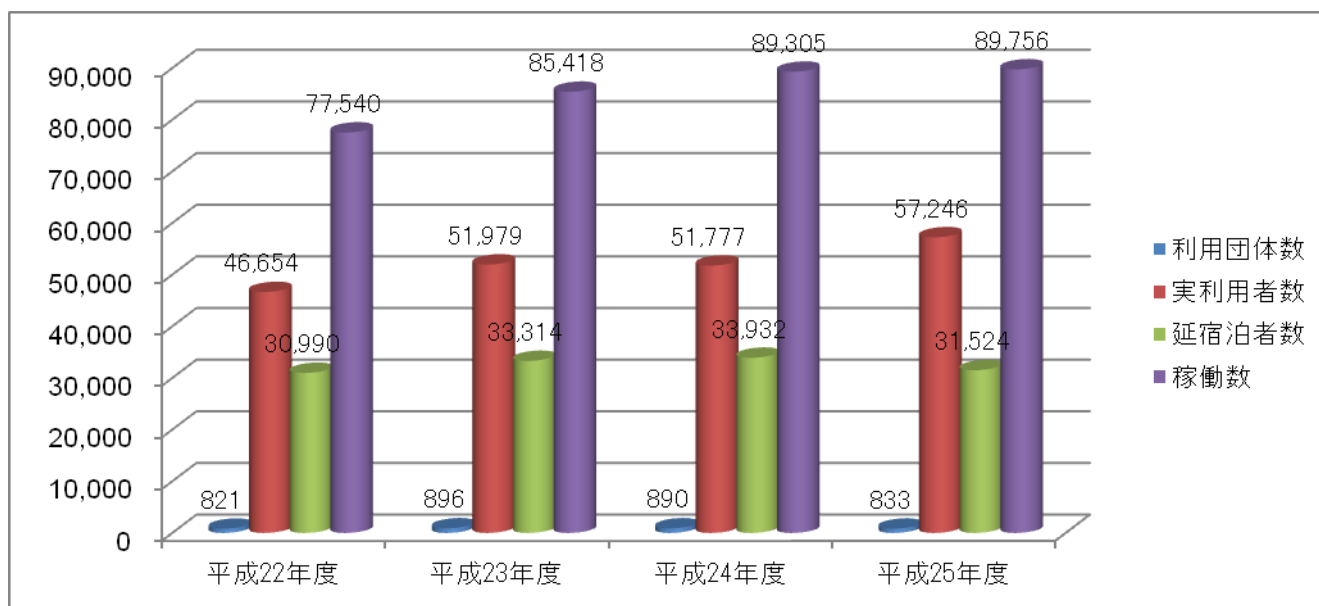
ブース出展では、定番となっている「木のペンダント作り」や「ヤドカリふれあい体験」を中心に、体験活動を提供してきた。これらの活動はリピーターも多く、年齢層を問わず好評を得ている。

また、高知県東部地区の有志団体が集まって開催した「高知東海岸ハピもぐ海山フェスタ」に参加したが、高知駅前というロケーションもあってか、たくさんの来場者に体験活動を提供できた。高知市内での P R 活動は数年ぶりだったが、これからは積極的に出向いて情報発信していきたい。

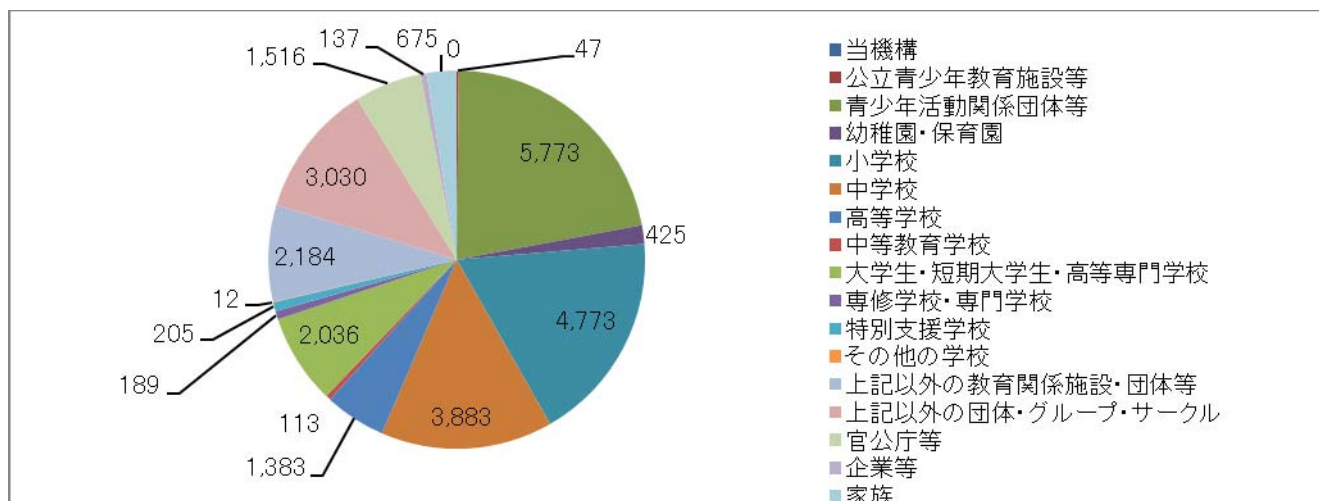
大学サークルへの利用促進として、高知大学の「課外活動団体リーダーシップセミナー」で施設をアピールした他、近畿・中国・四国地区の大学のサークルをジャンルでピックアップし、ダイレクトメールで合宿の誘致を図った。すぐにはサークルからの反応がなかったが、今後の利用に繋げるためにも、ターゲットを絞ったダイレクトメール送付や、大学を直接訪問しての利用促進を検討していきたい。

利 用 実 績

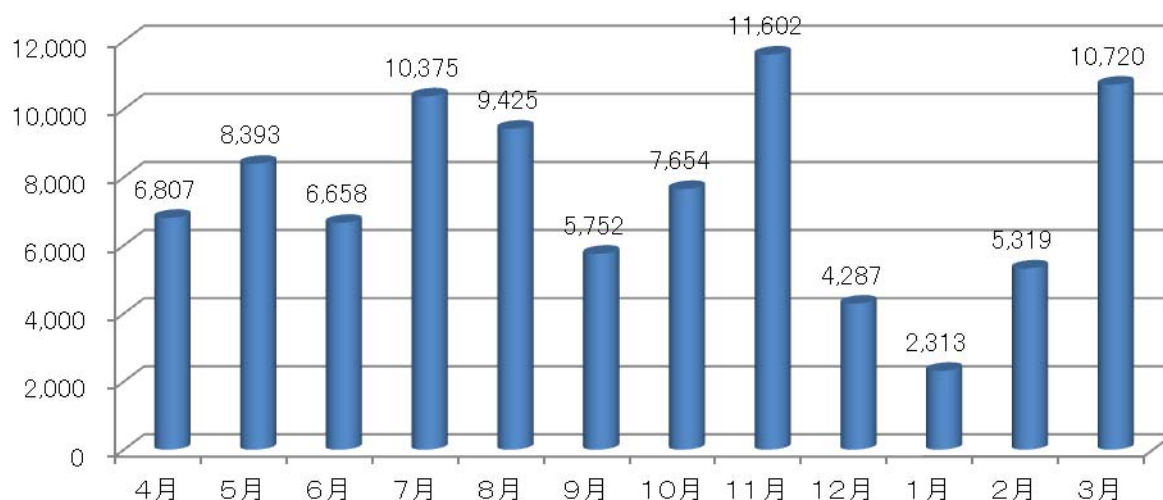
【年度別利用状況】



【団体種別稼働数】



【月別稼働数】





利用者の声



オーシャンカヤックを私は初めてやりました。水の中に入ると、すごく泳ぎにくかったです。こぐ練習をして、上手にこげるか不安だったけど、やっているうちに上手にこげるようになりました。実際にカヤックに乗ってこいでみると、ちょっとむずかしかったです。だけど、3人で協力しながらできました。それに、3人がこぐ息がぴったり合っていました。またやりたいと思いました。

(高知県 小学生 女子)



「日本列島ともだちの輪」に参加させていただきました。スノーケリングが心に残りました。水がすきとおっていて、海は瀬戸内海と全然ちがいました。この海が遠くアメリカまでつながっている太平洋だと思えば、わくわくしました。クマノミやウミスズメ、アオブダイなども見れてうれしかったです。こんな元気で海がきれいな町に住めて、みなさんはいいなと思いました。

(兵庫県 小学生 男子)



私が自然の家で思い出に残ったのは、ベッドで寝たことです。シーツとかする時に、友達と協力してできたので良かったです。ランチも全部おいしかったです。食べ物にかんしゃしたいし、作ってくれた方々にもかんしゃしたいです。スコアオリエンテーリングやオーシャンカヤックも友達と協力し、仲良くできたので良かったです。おふろはお話をしたりして楽しかったです。この二日間本当にお世話になり、ありがとうございました。とてもすてきな思い出になりました。これからもこのことを勉強とかにいかしてがんばりたいです。

(高知県 小学生 女子)



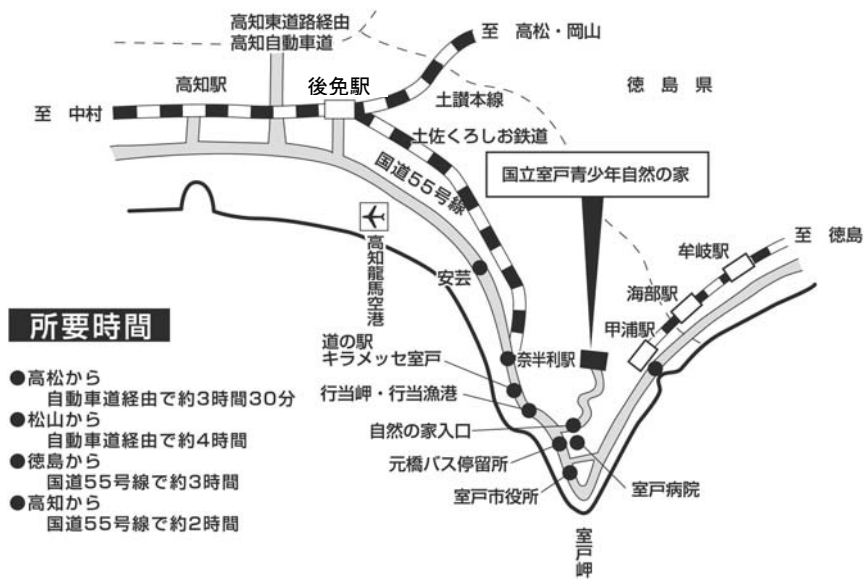
むろとの海でスノーケリングをしました。はじめに青い魚を見ました。その後、小さなクマノミがイソギンチャクの周りを泳いでいました。それに、エイ、ヒブダイの大きいものを三匹見ました。ウツボも見ました。その後は室戸青少年自然の家でとまりました。

ミニクルージングでははじめはただ船がゆれているだけだったけれど、後ろの方からはトビウオもいっぱい飛んでいました。最後の最後には、大群のイルカのむれを見ました。おれいの言葉を言ってドキドキしたけれど、少し上手にできて良かったです。

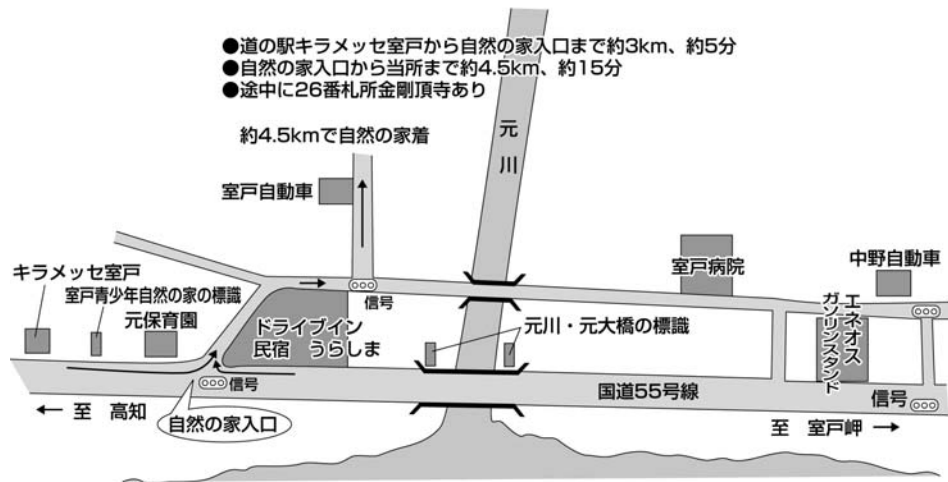
(愛媛県 小学生 男子)



交通案内



自然の家への入り口付近詳細図



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家

TEL. 0887-23-2313 (代)

FAX. 0887-23-2484

〒781-7107 高知県室戸市元乙1721

E-MAIL muroto@niye.go.jp

HP <http://muroto.niye.go.jp/>